

つばさ

～男女が支えあい、いきいきと暮らせるまちをめざして～

津市男女共同参画フォーラム わあむ津
開催しました！！



ワークショップの様子



展示の様子

まちを元気にする男女（なかま）たち



三重男性看護師会
前田貴彦さん、荒木 学さん にインタビュー

世界の大統領、首相、国家元首などの指導者のうち
女性は何人いるでしょうか？（2013年2月1日現在）

- ① 1～10人
- ② 11～20人
- ③ 21人～30人

※答えは、情報紙の中に。シロモチくんを見つけてね！



- 【内容】
- ◇津市男女共同参画フォーラム わあむ津
 - ◇まちを元気にする男女（なかま）たち
～第11回：三重男性看護師会～
 - ◇男女共同参画に関する市民意識調査・事業所調査
 - ◇あおあむネットワーク 第5回
 - ◇父親を楽しもう！！
 - ◇津市ヘルスマイトおすすめ簡単レシピ紹介
- No.14
2013.3

『つばさ』

「誰もが自由な心で生きられる社会を思い、男女共同参画社会の実現に向かって飛躍していきたい」という願いを込め、その力となる「翼＝つばさ」を象徴しています。

津市

◆『つばさ』各号は、下記のホームページで閲覧できます。

<http://www.info.city.tsu.mie.jp/modules/dept1021/article.php?articleid=1>

自分の人生は自分で切りひらく

今年度の津市男女共同参画フォーラム“わあむ津”は、2012年12月8日(土)、津リージョンプラザにて開催されました。午前中は各参加団体によるワークショップ、午後は映画字幕翻訳者・戸田奈津子さんの講演と映画「マーガレット・サッチャー 鉄の女の涙」、そして1日を通して参加団体の展示が行われました。市内外各地からさまざまな年代の男女721人が参加し、男女共同参画について知識や思いを深めることができました。



戸田奈津子さん講演会の感想より

戸田さんのお話、映画を見る前の期待感、女性の字幕の仕事の先駆けなど、とても興味深く楽しかったです。映画もとても楽しめました。

戸田奈津子さんの講演では「パイオニア精神、人がやっていないことをやる」「“好き”の持つパワー」「基礎力は重要」など、約20年間の下積みした後、ようやく夢を叶えた人ならではの重みのある言葉だと感じました。これから社会に出ようとする若い世代にこそ聞いてほしいと思いました。

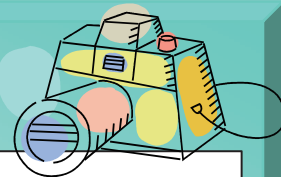


好きなことをなすには基礎知識を身につけること。成功するためには忍耐も必要、何事もあきらめない等、多くの事に共感し今更ながら学ぶ姿勢の大切さを学びました。

ワークショップ☆レポート

午前中のワークショップの中から一部をレポートします！

「防災から考える男女共同参画の地域作り」 津アイリス



午前中、保健センター待合ホールを会場に、津アイリス主催のワークショップ「防災から考える男女共同参画の地域作り」が開催されました。

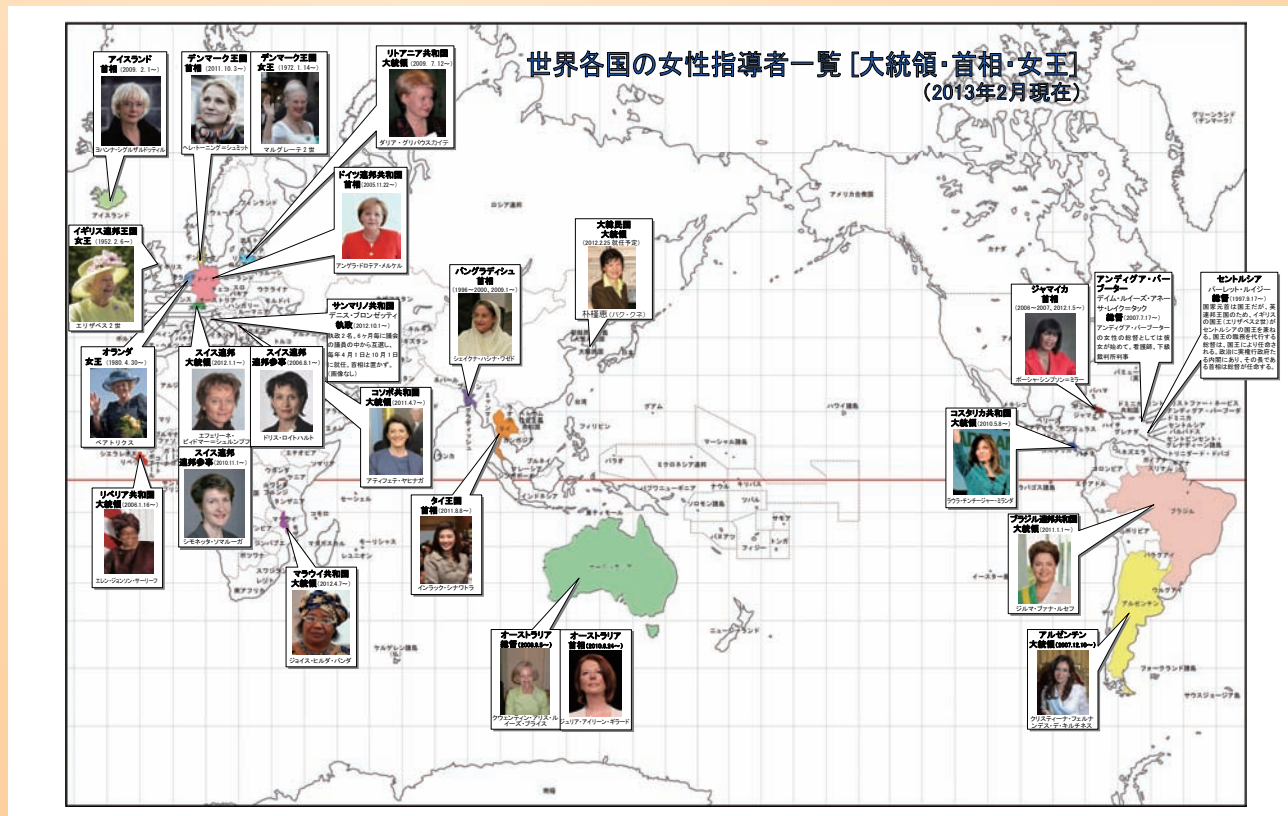
地域の防災に関心のある人、男女共同参画に関心のある人、また市の防災担当の人などが集まり、男女共同参画の視点で考える地域防災について話し合いました。ワールド・カフェ方式といって、時間を決めてテーブルメンバーを替えながら話し合いを持ったので、いろいろな人と意見の交流ができたと思います。今回出された様々な意見が、男女共同参画の視点を取り入れた地域防災や地域作りにつながることを期待されます。





正解は③です。2013年2月1日現在、世界には24名の女性指導者（大統領・首相・女王など）がいます。（昨年末の韓国の大統領選挙でさらに1名増えます。）

下の図は、今回の「マーガレット・サッチャー 鉄の女の涙」上映に合わせて、わあむ津実行委員会メンバーが作成したパネルです。この地図の他にも、各女性指導者1人1人について詳しく調査したパネルも展示されました。日本の部分が白いのが気になります。実行委員さんの労作が早く報われるよう、地域で、男女共同参画に、より一層取り組み、政策意思決定の場が男女平等になるよう推進していかなければならないと思います。



取材記者メモ

どのグループの方々も、地道に活動を続けていらっしゃる、敬服しました。継続は 力なり、といいますが、私たちが現在当たり前として享受している権利は、このような方々と同じ先人たちの努力の賜物である、と改めて思いを馳せました。

そして、今、女性の社会での活躍をサポートしたり、いまだに根深く残る男女格差の解消に努めようとされている方々の活動が、もっと広く社会で知られるにはどうしたらいいんだろう？という疑問を抱きました。



いろんな活動がある、でも、まだまだ小さい活動で、なかなか社会を巻き込むには至らない。活動グループ同士の連携、民間企業をもっと巻き込む（たとえばスーパーにチラシを置かせてもらうということも）、ジェンダー*教育は学校で取り入れてもらうなどして、もう一つ活動を大きくする工夫をする時期にあるのではないかと思います。

※ジェンダー… 社会通念や慣習の中には、社会によって作り上げられた「男性像」、「女性像」があり、このような男性、女性の別を「社会的・文化的に形成された性別」（ジェンダー／gender）という。



まちを元気にする男女（なかま）たち【第11回】

三重県立看護大学 小児看護学 准教授

三重男性看護師会

前田貴彦さん

まえだ たかひこ
国立病院機構 榊原病院 看護師

荒木 学さん

あらき まなぶ

～男女がバランスよくいるほうが 健康的な社会になる～

私たちが病院にお世話になる時、男性の看護師さんもちろぼろ見られるようになってきました。でも看護師の現場は、まだまだ女性の世界です。そんな中、男性看護師同士悩みや課題を共有し、ネットワークを作ろうと、県内で「三重男性看護師会」を立ち上げた、前田貴彦さんと荒木学さんにお話をうかがいました。



看護の現場を語る前田貴彦さん(左)と
荒木学さん(右)

(2013年1月24日 三重県立看護大学にて)

看護師になるきっかけは何ですか？ また実際に看護師となってみていかがですか？

前田：弟の入院がきっかけで、子どもの頃から医療職、特に小児科で働きたいと思っていました。ずっと小児科で働いていたので、子どもたちが良くなっていく姿をみたり、子どもたちやお母さんが「ありがとう」と言ってくれたりするのが嬉しくて、やりがいを感じています。

荒木：兄の就職難を間近で見ていたので、手に職を付けようと、最初は放射線科の大学に進学しました。けれど、実習していても患者さんとの交流が少なく、もっと人と接する仕事がしたいと、看護師の学校に入り直しました。今は精神科看護師をしていて、患者さんが良くなっていくことに喜びを感じています。

男性看護師の歴史はまだ浅いんですね？

前田：いえいえ、もともと男性看護師の歴史は古いんですよ。聖徳太子の時代に「看護人」と呼ばれる人がいて、ほとんどは男性でした。ヨーロッパでも産業革命以前は男性が行っていました。けれども男性が労働市場に大量に必要とされるようになったり、ナイチンゲールが登場したりして、看護は女性の仕事とされるようになっていったのではと思います。

荒木：私の職場にも長年勤めてこられた59歳の男性看護師がいます。



和やかな雰囲気の中、時間の経つのも忘れて語っていただきました。

前田：「看護師」という名称になったのはまだここ10年のことで、その前は、女性は「看護婦」男性は「看護士」でした。僕が免許を取った時、免許状も番号も別々だったんです。教育カリキュラムも僕の少し前は、男子は婦人科の実習がなくて、その代わりに精神科の実習を余分にしていたみたいです。

荒木：年配の患者さんは、今でも私に「看護婦さん」と呼びかけるので、「ハイ」と応えますよ。(笑)

男性が看護師の世界に入って、良かったことや困ったことはなんですか？

前田：患者さんには男性も女性もいるので、同性がケアできるなど、患者さんの選択の幅が広がるのではないかと思います。大人の患者さんだけでなく、子どもや思春期の子どもにとっても、そうだと思います。

荒木：職場の中でも、男女がバランスよくいるほうが、社会的な健康が保たれるのではないのでしょうか。特に女性ばかりで男性一人というのは、とてもかわいそうだと思います。休憩時は特に、居場所がないという話はよく聞きます。



前田貴彦さん

めざす看護師像はありますか？ 後輩の看護師に伝えたいことはありますか？

前田：患者さんや家族の方に信頼してもらえらる看護師になりたいと思います。また、自分で正しく看護の判断ができる、責任感のある看護師になりたいと思います。今は看護の現場を離れて学生を教えている立場なので、その2つをきちんと学生たちに伝えています。

荒木：以前一緒だった男性の副師長さんは、とても患者さんの身になって働き、また同時に職員にも気配りができる方だったので、あのような看護師になりたいと思ってきました。また自分自身、精神科看護師なので、その楽しさを新人や学生に伝え、精神科を希望する看護師を増やしていきたいと思っています。

男性看護師を増やすためにはどうしたらいいと思いますか？



荒木 学さん

荒木：知ってもらうことが一番大事だと思います。まだまだ、看護の世界について知られていないことが多いと思います。キャリアアップの方法など、高校生にも知ってもらえば、興味を持ってもらえるのではと思います。

前田：看護師という職業は、女性の仕事という認識が強いので、生計を立てていけるのか不安もあるのではないかと思います。経済面だけでなく不規則な勤務や超過勤務もありますので勤務状況を知ってもらうことも必要と思います。そして、男性看護師が増えれば、男性にとって看護師という職業が身近なものになると思います。

男性看護師会を立ち上げたのは何故ですか？ 今後どんな活動をされますか？

前田：男性看護師をめぐるのは、人数が少ない、つながりがない、身近にモデルがない、認知度が低いなど、さまざまな問題がありました。そこでまず、県内の男性看護師同士、病院を超えてつながろうと思ったのです。そしてお互い知り合って、情報交換し、刺激をしあい、ネットワークが作れたらと思っています。その中で、例えば話を聞いたり、不安を解消したり、エンパワメント※したり、男同士で共感できる場にもできたらと思いました。

昨年11月に初のシンポジウムを行いました。男性看護師以外にも、看護師をめざす看護学生や高校生にも、現状を知ってもらいたい機会になればと思いました。また女性看護師さんとも共同できるように、今後は女性看護師さんとも交え、お互いが共同するためにはどうしたらいいか考えていく機会も作っていかれたらと考えています。

※エンパワメント… 個人及び集団が意思決定過程に参画し自律的な力を付けること。



シンポジウム (2012年11月開催)

三重男性看護師会 連絡先

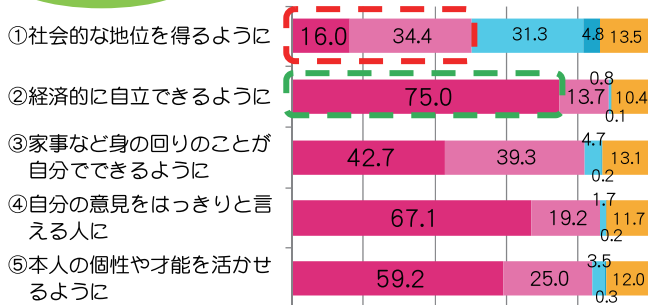
e-mail : miedanseikangosi@yahoo.co.jp 三重男性看護師会代表者 前田貴彦さん (三重県立看護大学)

—津市「男女共同参画に関する市民意識調査及び事業所調査(2012年)」に見るⅡ—

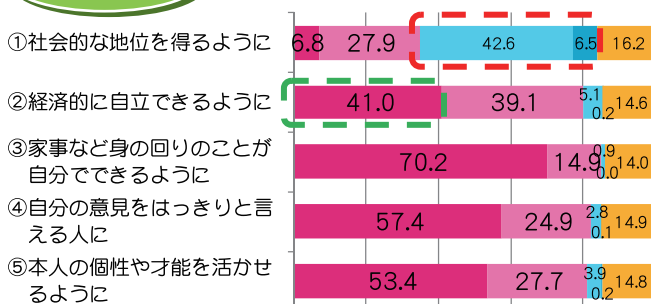
男女共同参画市民意識調査「子どもにどのような生き方をしてほしいか」

■重要 ■やや重要 ■それほど重要ではない
■重要ではない ■無回答 (単位: %)

男の子



女の子



①「社会的な地位を得るように」では、

男の子では、「重要」と「やや重要」を合わせた【重要】の割合が高く、約5割となっています。

女の子では、「それほど重要ではない」と「重要ではない」を合わせた【重要ではない】の割合が高く、約5割となっています。(【 】の部分)

②「経済的に自立できるように」では、

女の子に比べ男の子で【重要】の割合が高くなっています。(【 】の部分)

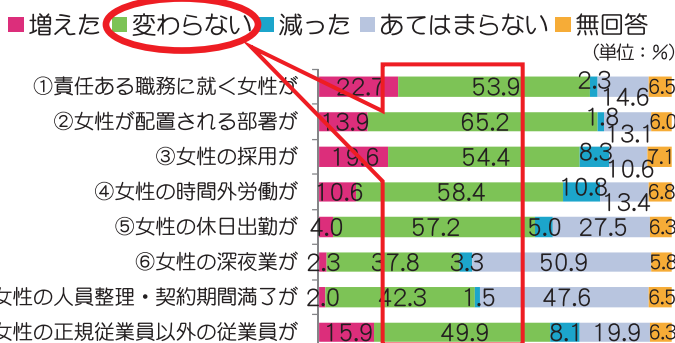
④「自分の意見をはっきりと言える人に」⑤「本人の個性や才能を活かせるように」では、

男の子女の子とも大差は見られません。

次世代を担う子どもたちにどのような生き方をしてほしいかという問いは、言い換えれば10年先、20年先の生き方として大事なものは何かという事につながるのではないのでしょうか。男女共同参画社会の実現に向けて、次世代を担う子どもたちの男女共同参画意識を育てることは大きな意味を持ちます。

男女共同参画事業所調査「女性従業員の就労状況について」

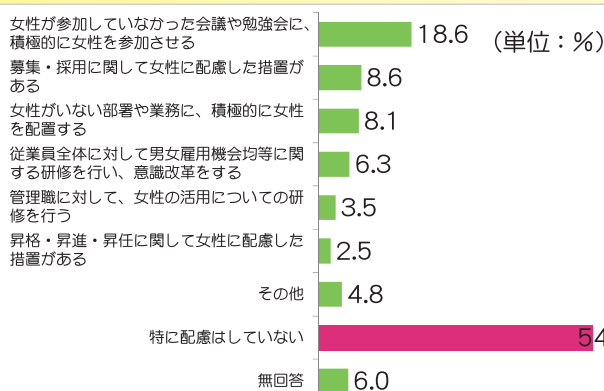
女性の雇用管理について、5年前に比べ、どのような変化がありましたか。



①責任ある職務に就く女性が【増えた】と回答した事業所は全体の22.7%、規模別でみると、31~60人規模の事業所での増加が目立っています。

しかしながら、ほぼすべての質問において【変わらない】と答えた事業所が大半を占め、女性活用がなかなか進まない実態が浮き彫りになっています。

職場において男女の均等な機会・待遇を確保するために、女性のみを対象にした何らかの配慮をしていますか。



女性管理職がいる、いないにかかわらず、「特に配慮はしていない」と答えた事業所が54.7%と最も高くなっています。また、その他の取組についても、実施している事業所の割合が低いことが分かりました。

事業所の男女格差是正へ向けてのより一層の取組が望まれますので、意識的、戦略的に女性を活用することを考え、それを支援するための施策を積極的に取り入れて欲しいものです。

つながろう津市の男女共同参画

あむあむ ネットワーク ⑤

第5回 無名針花 (ななしばな)

ちょっぴり変わったグループ名ですが、名も無き者が集い、幾つになっても針（張り）をもった花でありたいと願いを込めて命名しました、パッチワークの愛好者グループです。

布の優しさ、温かさに魅了され、自分らしさの作品作りに励んでいます。

色の組み合わせは、最大の自分らしさの表現です。

毎回「津市男女共同参画フォーラム わあむ津」終了後のレッスン日に、メンバー全員とする反省会を兼ねたお楽しみのお食事会は、明日からの活力となります。

男女共同参画に携わって、早や20年が経過し、たくさんの方々と出会い、学びや交流をして、複数のグループのメンバーとして加えていただき、裾野が広がりました。

この場での出会いを大切にして、今後も継続していきたいと思えます。



父親を楽しもう!!

イクメン向けの本のご紹介です。

「働くパパ」の時間術

- 仕事も家事も育児もうまくいく! -
栗田 正行 (日本実業出版)

「パパのための時間術 5つの基本ルール」をご紹介します。

仕事はもちろん、家事・育児にも使える時間が増え、職場でも家でも頼れるパパに変わり、家族みんながハッピーになれるとっておきの時間術です。



イクメンって言葉をご存知でしょうか？

イクメンとは、子育てを楽しみ、自分自身も成長する男性のこと。

または将来そんな人生を送ろうと考えている男性のことです。

男性はイクメンを目指し、女性はイクメンを応援してはいかがでしょうか。

そんな生き方も素敵かもしれませんよ。

パパのトリセツ

おおた としまさ
(ディスカヴァー・トゥエンティワン)

子育てをラクにする方法は、「パパ育て」にあった！

パパは、子育てをラクにしてくれる「全自動育児ロボット」!?

でも、パパを上手に使いこなしている人が意外に少ない。この本は、正しいパパの使い方がわかる取扱説明書です。

FQ JAPAN

- エフキュージャパン -
(アクセスインターナショナル)

英国発父親を楽しむ育児ライフスタイル情報誌。

新しい育児スタイルの提案や育児の基礎知識、育児アイテム、ハリウッドスターや日本の有名人パパなどのインタビューなどが紹介されています。



津市ヘルスメイトおすすめ簡単レシピ紹介



ドライカレー



材料(2人分)

★豚ひき肉	120g
★人参	50g
★トマト	220g
★ピーマン	50g
★にんにく	3g
★たまねぎ	100g
★しめじ	80g
★エリンギ	50g
★サラダ油	大さじ1/2
★調味料④	
・塩	小さじ1/4
・カレー粉	大さじ1.5
・固形スープの素	1/2個
・しょうゆ	大さじ1
★ご飯	150g

作り方

- ① 材料を次のように切る。
 - ・人参はいちょう切り
 - ・トマトはざく切り
 - ・ピーマンは1cm角
 - ・にんにく、たまねぎ、しめじ、エリンギは粗いみじん切り
 - ・固形スープの素は砕く。
- ② フライパンにサラダ油、にんにくを炒め、たまねぎを加え、中火で炒める。
- ③ しんなりしたら、豚ひき肉を加え、ほぐしながら火が通るまで炒める。
- ④ 人参、トマト、ピーマン、しめじ、エリンギを加え、時々混ぜながら、しんなりするまで炒める。
- ⑤ 調味料④で調味し、5分ほど煮詰める
- ⑥ 器にご飯を盛り、⑤をかける。

鶏胸肉の甘酢炒め



材料(2人分)

★鶏胸肉(皮なし)	60gを2切
★④	
・酒	大さじ1
・片栗粉	大さじ1/2
★たまねぎ	40g
★パプリカ(赤)	30g
★ピーマン	40g
★しめじ	40g
★オリーブ油	小さじ2
★調味料⑥	
・ケチャップ	大さじ1
・ほん酢	大さじ2
・砂糖	大さじ1/2
・にんにく	少々
★こしょう	少々

作り方

- ① 鶏胸肉を一口大のそぎ切りにし、ボウルに切った鶏肉と、④の酒・片栗粉を入れてもんでおく。
- ② たまねぎ・パプリカ・ピーマンは乱切りにする。
- ③ しめじは軸の下部分を切り落とし、小房に分ける。
- ④ 調味料⑥を合わせておく。
- ⑤ フライパンにオリーブ油をひき、①の鶏肉を炒め、たまねぎ・パプリカ・ピーマン・しめじを入れ炒める。
- ⑥ ④を加えて混ぜ合わせ、こしょうを入れる。

読者の窓 — 情報紙『つばさ』12号・13号の感想をいただきました。—



カラフルで見やすい。インタビュー記事が良かった。

結婚や子育ては、まだまだ遠い先の事でわからないけど仕事は絶対続けていると思う。

(20代女性)

これまで発行した『つばさ』各号は、津市男女共同参画室(本庁舎3階)にあります。



「男女共同参画」という言葉は聞いたことがあるけど具体的には???『つばさ』を読んでこういうことかとわかりました。

夫と家事の役割分担について改めて話し合いました。「男は仕事、女は家庭」という意識は今の時代にあり得ないと思います。

(30代女性)



「女性が社会に出るとはけしからん」という風潮が少なからず残っている時代に育ちました。

とはいえ、勤務している会社は取締役と管理職に女性が登用されており、個人的には男女共同参画に関してある程度理解しています。

「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」についての調査結果が興味深かったです。

(50代男性)



『つばさ』を読んで男女共同参画への取り組みがよくわかった。

いろいろな意味で、今は男一人が働いて一家を支えるという時代ではない。

インタビュー記事のように、普通の人をこれからも幅広く取りあげてほしい。

(70代男性)

ご意見などお待ちしております。(あて先は下記へ)

編集後記

今回『つばさ』編集に初参加です。

新しい出会いとたくさんの気づきがあったことに感謝しています。特に感じたのはパイオニアの方々のご苦労と壁を乗り越えるパワー。

性差を超えて、一人一人が自分らしく生きられる、個人の才能や資質を発揮できる社会に向けて時代と共に少しずつ、でも確実に前進していると感じています。(福岡)